

2020年度神戸大学前期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

国語

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、2020年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

【出題の意図・評価ポイント】

一（現代文）

いずれの問題も、長文の評論文を素材として、学力の三要素における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価するものである。

問一、問二、問三 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的に試す記述式問題。傍線部の周囲だけを手がかりにするのではなく、傍線部の意味を文章全体の構成や論理の展開に照らしてとらえる読解力が求められる。文章中のキーワードの情報を収集、整理する技能だけでは、設問が求める読解は得られない。また個々の文の意味を正確に読み取るための語彙力も必要である。さらに解答に盛り込むべき内容を制限字数内で正確かつ簡潔な文章にまとめるための論理的思考力、表現力、語彙力、記述力が求められる。

問四 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的に試す記述式問題。問一、問二、問三と同じ趣旨の問題であるが、全体を貫く論理の展開を正確に読み取ることが必要となる点で、より高度な読解力を試す問題である。本文の論理を度外視してキーワードの情報を収集、整理する技能だけでは、設問が求める読解は得られない。また個々の文の意味を正確に読み取るための語彙力も試される。さらに問一、問二、問三に比べて長い制限字数の解答を課することで、多数にわたる論点をただ列挙するだけではなく、それを論理的に構成して正確かつ簡潔な文章にまとめるための、より高度な論理的思考力、表現力、語彙力、記述力を試す問題でもある。

問五 標準的な漢字の書き取りを課することで「知識・技能」を試す問題。ただし、いずれの漢字についても正答を得るには文脈を正確に理解する読解力を要するので、間接的には「思考力・判断力・表現力」をも試す問題である。

二 (古文)

問一 古文をまんべんなく学習できているかを問うために、文学史の基本的な問題を出題した。

問二 基本的な古典文法の知識を有しているかを問うた。

問三 逐語訳にとどまらず、文脈を踏まえて適切に現代語訳を行えているか点検した。

①動作の主体を理解し、敬語を適切に訳せるかを問うた。

②動作の主体を理解し、「ましかば」や「まし」などの反実仮想、推量などの表現を適切に訳せるかを問うた。

③ 文脈に即し、動作の主体と動作の内容を適切に理解しているかを問うた。

④「心得」の動作の主体を理解しているか、「させまゐらせじ」の動作の主体を理解し、使役、謙譲、打ち消しなどが正しく訳せるかを問うた。また「さりげなく」や「もてなす」など古文に頻出する語彙も適切に訳せるかを問うた。

問四 「よろづ」の指し示す内容、「さむる」契機となった行為、「さむる心地」の状態を把握し、適切に文章表現できるかどうかを点検した。

問五 作者と鳥羽天皇との一連のやりとりを時系列的、論理的に整理して、作者が「うつくし」という気持ちを抱くに至る経緯を適切に説明できるかを点検した。

三 (漢文)

問一 基本的な助字の読み方、訓読を理解しているかを問うた。

問二

(ア)「亦」「独」「全」の意味および文脈を理解して正しく日本語に訳せるかを問うた。

(イ) 使役「令」の基本文法および文脈を理解して正しく日本語に訳せるかを問うた。

(ウ)「於」「須」の基本文法および文脈を理解して正しく日本語に訳せるかを問うた。

問三 文脈から「前事」の内容を正しく理解して説明できるかを問うた。

問四 文章全体の内容を反映させ、太宗が独善的な政治（およびそれによる国家の滅亡）に対する危機感をもっていたことや臣下の諫言を重視し積極的に求めたことを五〇字以内で簡潔に説明できるかを問うた。